

福島12市町村将来像提言フォローアップ会議資料

川内村復興の現状

～復興～創生に向けて～

村制施行130年を経て未来に向かい新たな村づくりを目指します



ワイン用ブドウ
高田島ヴィンヤード

川内村

村の現状

村は、平成23年3月の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故により、全村避難を余儀なくされました。震災後9年が過ぎ、これまで、生活環境の回復やインフラ整備など様々な施策を実施してきた結果、8割の村民が村での生活を再開しておりますが、若い世代や子どもたちの帰還が進んでいないのが現状であります。そのうえ、去年の台風第19号により村内各所に甚大な被害が生じたところでもあります。

そのため、震災・台風からの復旧・復興はもとより、健康で安心して生活できる環境づくりや村ならではの資源を活かした魅力づくり、仕事づくりを進めているところです。

さらには、交流人口を拡大し、定住人口として新たな風を呼び込むための施策や基幹産業である農林畜産業の振興、若い世代や子どもたちが戻ってきてもらうための教育環境の整備を推進しています。

急激な人口減少と少子高齢化、復興の反動減など厳しい現実を突きつけられていますが、その流れにあらがい、村民一人ひとりが生きがいや誇り（川内プライド）を持てる真の復興・再生を成し遂げなければなりません。

村内生活者等状況 (令和2年5月1日現在)

- ・ 震災時の住基人口数 3,038人 (1,119世帯)
(65歳以上1,017人・高齢者率33.47%)
- ・ 住基人口数 2,562人 (1,247世帯)
- ・ 震災時から476人減少
(65歳以上1,094人・高齢者率42.70%)
- ・ 村内での生活者数 2,069人 (960世帯)
(65歳以上 891人・高齢者率43.06%)
- ・ 村内生活者率 80.75%
- ・ 村外生活者数 493人 (福島県内403人・福島県外90人)
- ・ 村内生活者のうち新たな移住者 427人(20.63%)
- ・ 現在の就学者数
 保育園38人 小学校44人 中学校27人 計109人

新たな村づくりに向けた3つ分野

若者をはじめ住民が希望を持って暮らせるような、多くの人々を惹きつけるような魅力づくり

○産業振興

新たな農業、産業づくり
地域ぐるみの農林業体制の確立
担い手確保に向けた取り組み

○生活環境整備

一人ひとりに寄り添った教育の推進
道路等インフラ整備
住環境整備（空き家、民宿の活用等）
コミュニティ活動の充実化

○交流人口拡大

来訪者の趣向等を踏まえた効果的PR
来村者の受け入れ環境づくり
村外との交流・絆づくり



自然の村長 モリタロウくん

令和2年度主要事業

一般会計予算9,348,000千円
(前年度対比12.67%増)

| | |
|--------------------|-------------|
| ○教育環境整備事業 | 1,442,444千円 |
| ○除染事業(廃棄物搬出費含む) | 1,128,991千円 |
| ○農林水産業施設災害復旧事業 | 658,301千円 |
| ○公共土木施設災害復旧事業 | 1,684,038千円 |
| ○ワイン醸造施設整備事業 | 442,163千円 |
| ○ふくしま森林再生事業 | 297,500千円 |
| ○住環境整備事業(住宅購入) | 300,000千円 |
| ○防災行政無線更新事業 | 158,950千円 |
| ○中山間地域・多面的機能支払推進事業 | 75,253千円 |
| ○食品放射能検査事業 | 25,716千円 |
| ○村づくり運営法人補助事業 | 10,000千円 |
| ○交流人口増イベント事業 | 21,500千円 |